

玉名市がめざす小中一貫教育の取組について

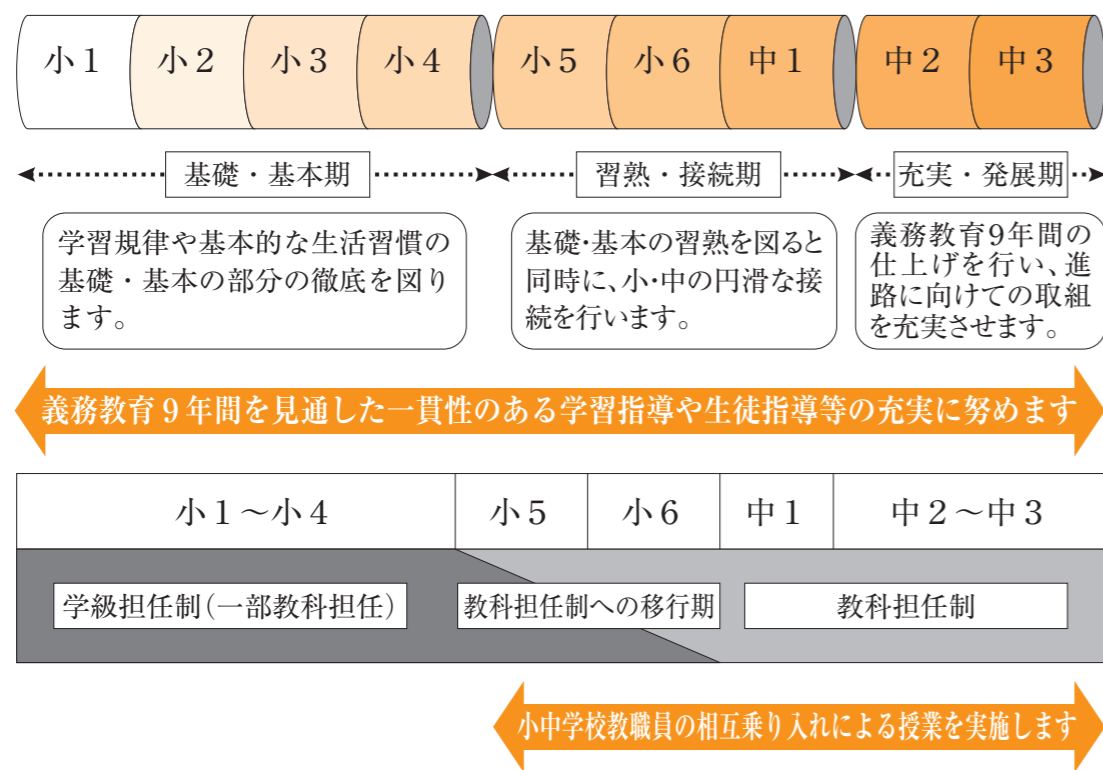
玉名市がめざす「小中一貫教育」とは、小学校と中学校の教職員が相互に連携・協力しながら、義務教育の9年間を見通した一貫性のある学習指導や生徒指導を行うことで、子どもたちのより豊かな人間性や社会性の育成と学力の向上を図ろうとするものです。

小学校と中学校の教職員が連携・協力して指導を行っていくことで、より深い児童生徒理解に基づいた指導ができるようになりますし、小学校と中学校の教職員のお互いの良さを生かした、きめ細やかで専門性のある指導が可能になるため、結果として子どもたちのよりよい成長に結びついていくと考えています。また、異年齢交流の機会等も増え、子どもたち同士のつながりもより深くなっていくととらえています。

玉名市がめざす、この「小中一貫教育」は、今現在、各小中学校で取り組んでいる小小連携及び小中連携教育をさらに充実・深化・発展させたものです。

※当面は、右ページ【主な取組内容】の『①小学校と中学校の施設が分離している場合』の取組になります。

【義務教育9年間のとらえ方】



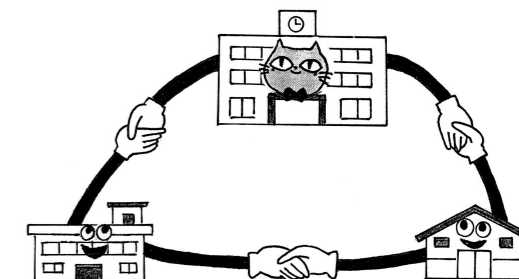
※小学校と中学校の教職員が義務教育の9年間を見通したうえで、小学校1年生から4年生までを『基礎・基本期』、小学校5年生から中学校1年生までを『習熟・接続期』、中学校2年生から3年生を『充実・発展期』ととらえ、系統的かつ継続的な指導を行っていきます。

※基礎・基本期は、学級担任制(3, 4年生は、理科など一部専科教科の場合もある)です。習熟・接続期も5, 6年生においては、学級担任が中心ですが、専科教科を増やして、子どもたちの学習意欲を喚起していくと同時に、中学校との滑らかな接続を図っていきます。

【主な取組内容】

①小学校と中学校の施設が分離している場合

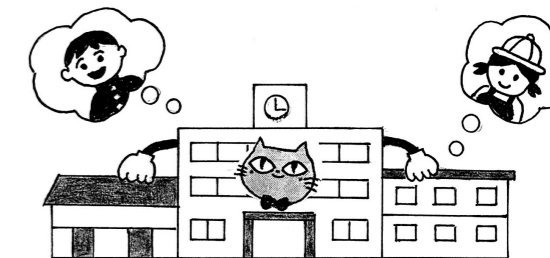
- ・めざす子ども像の一元化（9年間を見通した教育目標の設定）
- ・小中学校9年間を見通した一貫性のある学習指導及び生徒指導の展開（『基礎・基本期』『習熟・接続期』『充実・発展期』といった視点からの一貫した指導）
- ・小中学校一貫した特別支援教育の推進
- ・小中学校教職員による合同研修
- ・小中学校教職員による相互乗り入れ授業（一部）
- ・小学校の同学年交流活動
- ・異学年交流（小中間も含む）活動
- ・その他



②小学校と中学校の施設が一体になった場合

※施設が分離している場合の取組内容に加えて、下記のような内容が可能になってきます。

- ・小中学校教職員が一体化します（職員室も一つになり、相互の連絡、情報交換がいろいろな場面において可能になります）。
- ・小中学校児童生徒相互の交流（日常活動等いろいろな場面において可能）
- ・小中学校教職員と児童生徒の交流（日常活動等いろいろな場面において可能）
- ・小中学校合同行事の開催
- ・合同職員会議
- ・PTA組織の一本化
- ・その他



【特色ある教育課程の編成】

玉名市独自の科目として『玉名学(仮称)』を新設し、小学校1年生から中学校3年生まで系統的に学習していきます。玉名学では、玉名の伝統文化や日本人の美徳、人格形成のための作法、基本的生活習慣、国際理解等について学んでいきます。また、英語を『第二言語(仮称)』として位置づけ、小学校1年生から毎日10分～15分程度学習し、英語の習得をめざしていきます。そして、玉名学と第二言語の学習を通して、生まれ育った玉名への誇り（ローカリズム）、日本人としての尊厳（ナショナリズム）、世界への順応力（グローバリズム）をもつ子どもたちを育てていきたいと考えています。

なお、玉名学は、総合的な学習の時間（1, 2年生は生活科の一部）と道徳、学級活動を組み合わせた形で展開していく予定です。

【小中一貫教育で期待される効果と課題】

不登校生徒や問題行動の減少、児童生徒の学力向上、学校が楽しいと感じる児童生徒の増加、児童生徒の心の安定等が先進校から報告されており、玉名市でも同じような効果が期待できると考えています。また、中学生が低学年の児童と接することで優しくなったといった事例も多数報告されています。一方、施設分離型における教職員間の連絡・調整や相互乗り入れ授業、合同研修の時間の確保等が課題としてあげられています。また、一部教員の担当授業時数の増加も課題となっており、実施にあたっては、様々な対策を考えていく必要があります。